

楽読
(ラクヨミ) Vol. 1,270

米金融緩和の縮小局面でも堅調な金価格 ～緩やかな利上げに勝る、「安全資産志向」～

nikko am
fund academy

楽読(ラクヨミ)

米国では、段階的に利上げを行なっているFRB(連邦準備制度理事会)が、量的金融緩和で膨らんだ保有資産の縮小を今月にも決定すると見込まれており、金融緩和の縮小が着々と進みつつあります。ただし、金価格は、地政学リスクや米国政治の先行き不透明感などを背景に、足元で堅調な動きとなっています。

一般に、景気拡大に伴って金融政策が引き締められる(≒金利が上昇する)局面では、利息や配当といったインカム収入をもたらさない金の価格は下落する傾向にあり、反対に、景気後退に伴って金融政策が緩められる(≒金利が低下する)局面では、安全資産としての側面が注目され、金の価格は上昇する傾向にあるとされています。2015年以降の動きを確認すると、同年12月の9年半ぶりの米利上げに先立って、利上げ観測などから同国の国債利回りが上昇する中、金価格は下落傾向となったものの、実際に利上げが決まると金利上昇は一服し、金価格が反発しました。こうした動きは、その後の追加利上げ局面でも概ね繰り返されています。このように、利上げ決定後に金利上昇が一服し、金を買われた主な背景として、FRBが緩やかなペースでの利上げを繰り返し示唆していることや、同国の物価の伸びが緩慢なことなどが挙げられます。加えて、英国のEU(欧州連合)離脱懸念など、欧州での政治面の不透明感や、トランプ政権誕生以降の米国政治の先行き不透明感の強まり、さらには、テロや北朝鮮問題など、地政学リスクの高まりなどを受け、安全資産を選好する投資家からの需要が根強いことも、足元での金価格の堅調につながっていると考えられます。

米国では、景気や雇用の回復は続いているものの、物価の伸びが依然として緩慢なことなどから、現状では、金融緩和の縮小は今後も極めて緩やかなペースにとどまり、金利の押し上げ圧力、つまり、金価格の押し下げ圧力も限定的と考えられます。こうした中、英国のEU離脱を巡り、同国とEUとの交渉が難航気味であることや、トランプ政権の政策運営面での不透明感が続く可能性、さらに、北朝鮮と米国などとのにらみ合いが長期化するとの見方が多いことなどが、金相場を今後も強く支えると思込まれます。また、今後、新興国の経済成長率の加速などに支えられ、世界景気の回復・拡大が鮮明になるに連れ、宝飾品や産業向けの金の需要が高まったり、外貨準備の分散の一環として、各国中央銀行による金の保有が進むなど、投資分野以外での金の需要が高まることなども考えられます。

金価格と米国の金利・物価指数*の推移

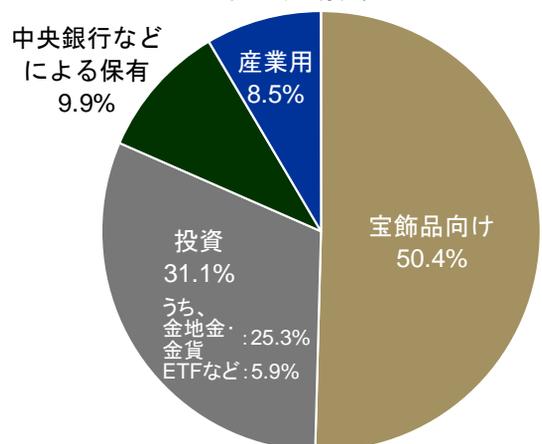


*PCE(個人消費支出)コア物価指数、2017年7月まで **レンジの上限信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

金の需要の内訳

(2017年4-6月期、数量ベース)



四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

World Gold Councilのデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。